2026 年度　タイ・カセサート大学　単位互換プログラム　10 月報告書

獣医学群獣医学類　5 年　伊藤　心音

1week:Phathology

第 1 週は血液学、寄生虫学、病理学など幅広い分野について学んだ。血液学では、好中球や赤血球が増減する原因について学び、これまで日本で学んだ内容とも関連づけながら理解を深めることができた。また、アヒルの解剖実習では、動物にできるだけ苦痛を与えない安楽死の方法や美しく解剖する方法を学んだ。また、鳥の解剖は初めてだったので、哺乳類との解剖の違いを改めて整理出来た。さらに、アデノウイルスを用いた免疫組織化学染色（IHC）では、2 種類の抗体を使ってウイルスの有無を確認する方法を実践した。PCR も経験し、寄生虫の種類を予測する検査に挑戦した。今まであやふやだった検査の仕組みや診断方法を実際に学ぶことができ、とても貴重な経験となった。



2week:Swine

第 2 週は養豚場の見学や豚の解剖実習を通して、養豚現場の衛生管理や感染症対策について学んだ。見学したのは、以前 ASF が発生し、全頭入れ替えを経験した養豚場であった。その農場では、養豚場の在り方を考えさせられた。一方で、豚の排泄物を利用してプランクトンを生産し、エビの養殖に活用する循環型農業が実践されており、環境資源を有効活用する工夫に興味を持った。また、豚の解剖実習では、先生に一対一で指導していただいた。私が解剖した豚は腸間膜浮腫を患っており、浮腫という病態について他の豚と比較しつつ学びを深めた。さらに、In situ hybridization（ISH）について学び、IHC との違いやウイルスの検出方法について理解した。特に、ウイルスの変異速度から出現時期を推定できることが印象に残った。



豚の解剖（主訴：下痢）



養豚場

3week:Equine

第３週は馬の実習で入院症例の治療や馬の基本的な診察方法について学んだ。特に、蹄葉炎の予防として、馬の脚を氷で直接冷やす治療法が印象に残った。また、両側の耳下腺付近にメラノーマが認められた馬の症例を通して、腫瘍の転移や診断方法について学んだ。メラノーマの確定診断にはどのような検査が必要なのか、IHC など以前に学んだ技術も活用できることを知り、これまでの学習内容と結びつけて理解を深めることができた。さらに、競走馬牧場での実習では、馬の扱い方や経口投与の方法を実践的に学び、これまで曖昧だった跛行の診断についても詳しく理解することができた。一方で、プレゼンテーション発表の中で、メラノーマに対して自分の研究室で行われているオゾン療法が効果を示す可能性があるのではと発表した。しかし、自分の英語力、プレゼンテーション能力が未熟なために、タイの先生方にオゾン療法の効果について理解を得られず悔しい思いをした。



競走馬の診療所

4week＆6week:Ruminant

第４週はノンホー地域の病院へ泊まり込み、反芻動物の実習を行った。農場での直腸検査や神経学的検査など、実践的な診察方法を学んだ。直腸検査では、子宮を無理に探すのではなく、頭の中で子宮の形や位置といった解剖をイメージすることが大切だと教わり、以前よりも感覚をつかむことができた。また、後肢麻痺の牛の診察では、筋緊張の亢進から上位運動ニューロン（UMN）の障害を考えることを学び、苦手だった神経学的検査への理解が深まった。さらに、肺炎のヤギの治療や分娩にも立ち会い、実際の臨床現場での判断や対応の重要性を感じた。アナプラズマ症の症例では、日本では届出伝染病に指定されている Anaplasma marginale を血液塗抹標本で観察することができ、貴重な経験となった。しかし、ノンホーの寮はシャワーが水のみだったこと、２段ベッドの上段は手すりがない等、劣悪な環境であった。



ヤギの出産

第６週はカンペンセンキャンパスで反芻動物の実習が始まり、さまざまな症例の診察や治療を見学した。創傷性心外膜炎の牛に対して、専用の器具を使って磁石を投与する処置を実際に体験させていただいた。また、濃厚飼料の過剰給与によるルーメンアシドーシスから大脳皮質壊死症を発症し、起立不能となったヤギの症例を通して、飼養管理と神経症状の関係について学んだ。さらに、蹄病が多発する農場を訪問し、濃厚飼料の給与やタイの高温多湿な気候が疾病の発生に関係することを知った。実習では牛の尾静脈から初めて採血を行い、穿刺部位や手技のポイントを実践的に学ぶことができた。ほかにも、２農場が所有権を争う牛の DNA 鑑定のための採血（警察官の目の前で）や、バベシア感染による下顎の腫脹、貧血が疑われる症例など、珍しい症例にも遭遇した。日本ではあまり見る機会のない寄生虫症を何度も経験し、地域の環境や衛生管理が動物の健康に大きく関わることを実感した。



創傷性心外膜炎予防にマグネットを挿入する際に利用する棒



大脳皮質壊死症で起立不能のヤギ

5week:Exotic Animal

第５週はエキゾチックアニマルの実習であった。ウサギの保定や鼻涙管洗浄を学び、猛禽類の身体検査や筋肉注射にも挑戦した。また、カメのレントゲン撮影や皮下補液、ハリネズミの下顎腫瘤の症例など、さまざまな動物の診察や治療を見学した。特に、ハリネズミの腫瘤に対して、すぐに生検を行うのではなく、先に抗炎症薬を投与して炎症を抑えるという治療方針が印象的で、日本との診療方針の違いを感じた。さらに、イノシシの牙の切除やシカの角切り、ゾウへのマイクロチップ埋め込みや妊娠検査など、普段見ることのできない貴重な経験もできた。動物の種類によって保定方法や検査方法が大きく異なることを実感し、エキゾチックアニマル診療の奥深さを学んだ。他にも、麻酔銃を実際に利用している場面を見たり、吹き矢の練習をしたりと日本ではなかなかできない体験をさせていただいた。



ワシの健康チェック（羽の状態を確認中）



吹き矢の練習

～休日～

１週目　バンコク（記録的な大雨でアユタヤ断念。プラチナムでショッピング）

２週目　ナコンパトム（プラ・パトム・チェーディー）

３週目　バンコク（チャトチャック市場に行けば欲しいものが見つかります。
シリラート博物館は言ってみたかった場所でした。とても面白かったです。）

４週目　パタヤ（ラン島で泳ぎました。とっても綺麗です！）

５週目　プーケット（シミラン諸島は人生一綺麗な海でした。北大生とタイで一緒の留学プログラムに参加していたハンガリー人と行けて楽しかったです。）

６週目　チェンマイ（チェンライに首長族がいました。ミシュラン掲載店の食べ歩きは幸せでした。）



チェンライ（ブルーテンプル）



シミラン諸島